

細川家には多彩な江戸時代絵画が伝わります。江戸時代に幕府や諸大名の御用絵師の座をほぼ独占した江戸狩野派の優品をはじめ、動物画を得意とした森派、谷文晁の《東海道勝景図》などがあります。また、細川家8代目の重賢は数々の写生帖を制作させて江戸時代における博物学に多大なる影響を与え、10代目の斉滋は自らも絵筆を揮い、中国絵画や絵巻物を収集して配下の御用絵師たちに学ばせ、熊本に多彩な絵画文化をもたらしました。さらに、細川護立が数多く収集した白隠や仙厓の作品も見逃せません。今回の展示ではこのような江戸時代絵画のコレクションの中から、選りすぐりの名品を紹介します。



衛藤良行「領内名勝図巻《上益城郡矢部手永之内》」江戸時代後期



谷文晁「東海道勝景図」江戸時代後期

展覧会名：江戸絵画の美 一白隠、仙厓から狩野派まで一

会 期：2018年10月13日(土)～12月5日(水) ※会期中、一部展示替えがあります

開館時間：10:00～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日：毎週月曜日

会 場：永青文庫 (東京都文京区目白台1-1-1)

入 館 料：一般800円(700円)、シニア(70歳以上)600円(※500円)、大学・高校生400円、中学生以下無料

※()内は10名以上の団体料金。障害者手帳をご提示の方およびその介助者(1名)は無料。

白隠・仙厓の禅画

今年は白隠の没後250周年にあたります。白隠と仙厓の、ユーモラスな中に深さを感じさせる禅画の数々をご紹介します。



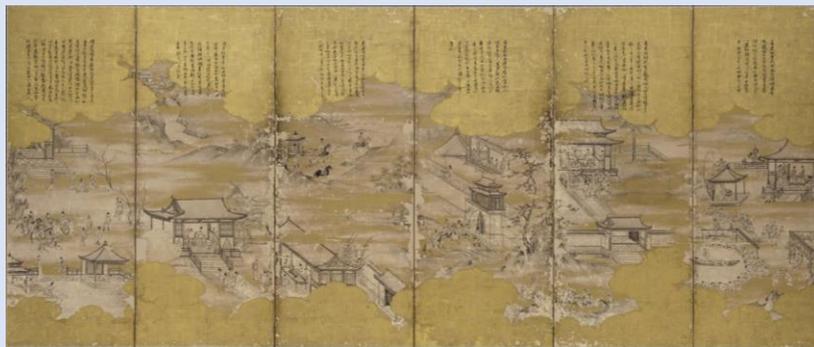
白隠慧鶴「虚堂智愚像」江戸時代中期
(11月11日までの展示)



仙厓義梵「朧月夜図」江戸時代後期

狩野派の絵画

狩野派は、室町時代の狩野正信に始まり、子の元信のときに強固な組織を確立しました。桃山時代には狩野永徳が一時代を築き上げ、江戸時代には狩野探幽が幕府御用絵師となり、画風と組織を再構成し、幕末まで繁栄し続けました。



狩野派「帝鑑図屏風」(左隻) 桃山時代 (11月11日までの展示)



狩野栄信「百鳥図」江戸時代後期
(11月13日からの展示)

細川家に仕えた絵師たち

細川家では、狩野派の他に、熊本で矢野派という流派が御用を務めました。また、絵画好きであった10代斉茲は森派の絵師を招き、熊本では多くの絵師が輩出されました。



森徹山「桜猿・紅葉鹿図」
江戸時代後期 (11月13日からの展示)



福田太華「孔雀図」
江戸時代後期

細川重賢の博物図譜

細川家8代目の重賢は、当時流行した博物学を好み、数々の精緻な動植物の博物図譜を残しました。



細川重賢編「毛介綺煥」江戸時代中期

平成30年度秋季展「江戸絵画の美—白隠、仙厓から狩野派まで—」 広報画像申請書
2018年10月13日(土)～12月5日(水)

貴社名:	媒体名:
ご担当者名:	ご所属:
TEL:	FAX:
ご住所:	
E-mail:	掲載予定日: 年 月 日
掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズ など)	

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



1、谷文晁「東海道勝景図」江戸時代後期



2、衛藤良行「領内名勝図巻
《上益城郡矢部手永之内》」
江戸時代後期



3、狩野栄信「百鳥図」
江戸時代後期
(11月13日からの展示)



4、狩野派「帝鑑図屏風」桃山時代(11月11日までの展示)



8、白隠慧鶴
「虚堂智愚像」
江戸時代中期
(11月11日までの展示)



5、森徹山「桜猿・紅葉鹿図」
江戸時代後期(11月13日からの展示)



6、福田太華「孔雀図」
江戸時代後期



7、細川重賢編「毛介綺煥」
江戸時代中期



9、仙厓義梵「朧月夜図」
江戸時代後期

【広報画像ご使用に際してのお願い】

- ※写真の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- ※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。
- ※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

- ※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみに使用いたします。
- 許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。